

新発田市・紫雲寺町・加治川村 合併の記録

新 発 田 市



はじめに

平成15年7月7日、新発田市は豊浦町と合併し、さらに、平成17年5月1日には、紫雲寺町及び加治川村との合併を実現し、人口10万6千人を擁する新しい新発田市としてスタートいたしました。

今日の地方行政においては、生活圏の広域化や高齢化社会の進展に伴う行政需要の増大、地方分権の推進などに伴う簡素で効率的な行政運営の確立など、新たな課題に的確に対処していく必要に迫られております。とりわけ、住民に一番身近な市町村においては、その行財政基盤の強化を図り、自己決定・自己責任が求められる時代を迎えました。時代の要請にこたえ、住民福祉の維持・向上を図るため、新発田市、紫雲寺町及び加治川村は「合併」という手法を選択し、県北地方の中核都市として更なる発展を目指すことといたしました。

新発田市、紫雲寺町及び加治川村は、地理的にも歴史的にも結びつきが強く、行政の事務・事業について共同処理する部分も多く、文化・経済・医療など生活圏の一体化が進んでおり、合併推進への土壌はできていました。

とはいえ、合併の実現に至るまでは、いくつかの困難な課題があったことも事実です。これらの課題を一つ一つ克服し、合併を成功させた背景には、三市町村の議会が議員協議会を設立し、議員同士の交流を深め、互いの地域の発展のために尽力されたことや、さらには住民の皆様方においても、信頼関係が築かれていたことが大きな要因であったと言えます。

本書は、合併に至るまでの背景や経過についてまとめたものでございます。三市町村の合併に際し、ご指導ご協力いただいた関係各位に、深甚なる感謝を申し上げ、今後は、三市町村が長い年月にわたって培ってきた伝統と文化を基に、新しい新発田市の一層の発展に全力を尽くしてまいります所存でございます。市民の皆様方をはじめ、関係各位の更なるご支援ご協力をお願い申しあげ、巻頭のごあいさつとさせていただきます。

新発田市長 片山吉忠



新発田市・紫雲寺町・加治川村合併推進協議会（任意協議会）
第1回会議

（平成15年12月26日）



新発田市・紫雲寺町・加治川村合併協議会（法定協議会）
第3回会議

（平成16年6月19日）



合併協定調印式
(平成16年7月19日)



合併協定書

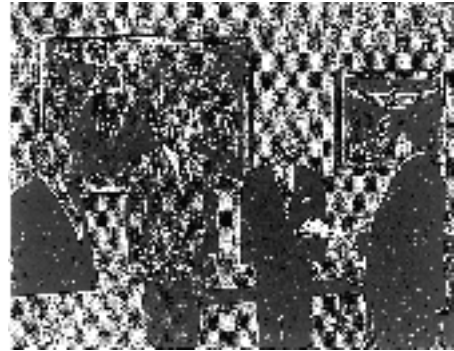
新発田、紫雲寺、加治川の3首長 知事に廃置分合申請



新発田市と北浦紫雲寺町、同加治川村の首長が二日、県庁を訪れ、三市町村による廃置分合(合併)を平山征夫知事に申請した。九月県会での議決を経て、来年五月に新・新発田市が誕生する。

知事を訪れたのは、片山吉忠・新発田市長と鬼嶋正之・紫雲寺町長、佐藤康夫・加治川村長の三人。知事は、「今後のまちづくりをしっかりとつくりたい」と要請し、中心市街地の活性化事例などを紹介した。また、昨年七月に旧北

浦豊浦町と合併したばかりの新発田市の片山市長は申請後、「次の合併が本当の意味のスタート。三市町村の資源を結びつけ、市民の力が高まるようなまちづくり総合計画を考えたい」と語った。紫雲寺町と加治川村は来年五月一日、新発田市に編入合併する。合併後の人口は約十万六千人。



平山知事(右端)に廃置分合を申請した片山・新発田市長(右から2人目)、鬼嶋・紫雲寺町長(同3人目)、佐藤・加治川村長=2日、県庁

読売日報

知事に合併申請

新発田など3市町村

新発田市、紫雲寺町、加治川村は二日、各市町村議会で合併に必要な廃置分合議案が可決されたことを受け、平山知事に合併申請をした。関連議案は九月定例県議会に提出される見込み。三市町村は来年五月一日に合併予定で、人口規模は約十万六千人。

三市町村の廃置分合申請を報じる



加治川村閉村式典
(平成17年 3月22日)



紫雲寺町閉町式典
(平成17年 3月30日)

ニュー新発田市 誕生

平成17年**5月1日**日

新発田市、
紫雲寺町、加治川村は合併し、
新「新発田市」が
誕生します。

海の幸、山の幸、里の幸、人は幸。

山、川、海の恵みと人の知恵がひとつになつて、

もっとよくなあたららしい新発田市がスタートします！

ヨ
オ
ッ
パン
パン
パン
パン
パン
パン
パン
パン
パン
パン

おめでとう新発田市。



合併記念イベント「城下町しばた文化の祭典」

2005

4.23土・**24**日

入場
無料

●会場：新発田市地域交流センター他

時間 9:00~16:00

◆問合せ先：新発田市立舞楽協議会TEL.22-3111



城下町しばたの魅力を
再発見・新発見しましょう！

◆イベント内容は

- ◆職人技の実演、体験、展示
- ◆地域伝統芸能発表会
- ◆各地域の地場産野菜、特産品販売
- ◆まつりシンポジウム「THE・山中」
- ◆花燈プロジェクト ◆その他

合併記念事業「城下町しばた文化の祭典」
(平成17年4月23日、24日)



加治川村閉庁式
(平成17年 4月27日)



紫雲寺町閉庁式
(平成17年 4月28日)



新発田市紫雲寺支所開所式
(平成17年5月1日)



新発田市加治川支所開所式
(平成17年5月1日)



新発田市・紫雲寺町・加治川村合併記念式典
(平成17年5月2日)



市町村合併功労者
総務大臣表彰





●面積/532.82平方km
 ●人口/10万6016人
 ●世帯数/3万1925世帯
 (平成12年国勢調査による)

魅力ある市町村が 結集して新時代を

かつて平安末期には新発田市、紫雲寺町、加治川村の周辺は加地荘と呼ばれる荘園で、農業地帯として豊かな水と緑に囲まれて発展していましたが、その後、それぞれの特長を生かしながらのまちづくりを行ってきました。

緑やしほきされながら緑の大地に希望をたくみ、愛せるまち、誇れるまちとして「人は幸」と言える新しいふるさとを、次世代の子どもたちのためにつくり上げていくのです。

次世代の子どもへ 新ふるさとの創造

平成十七年五月二日、県北地域に新しい歴史が刻かれます。「白砂青松(はくしせいしやう)の海岸や海(うみ)の幸」が豊かな紫雲寺町。

大峰山桜樹林や金山城跡遺跡など「山の幸」いほひの加治川村。

そして新発田藩の時代から日本の穀倉地帯といわれる蒲原平野に位置し「里の幸」に恵まれた新発田市。この三つの魅力的な市町村が合併して、県北地方初となる十万人の拠点都市が誕生します。

新発田市・紫雲寺町・加治川村

新生・新発田市

新発田市は清口秀勝侯が入封以来二百八十年間、城下町として伝統や文化を守り、交通の利便性や自然に恵まれた立地を活かしての産業を培ってきました。昨年七月には新発田城の三階櫓(さんかいろう)と辰巳(たつみ)櫓の復元も行われ、シンボルとして市民に親しまれています。

紫雲寺町は享保二十年の紫雲寺岡の手拓で開発が推し進められ、今も先人の開拓者精神が息づいています。藤塚海岸水浴場など、立体化した海洋性レクリエーションの拠点を目標としました。

加治川村は日本一小さな山脈、郷(きょう)し形山脈を有しています。特に国の天然記念物である大峰山の麓(ふもと)平桜樹林など、桜の里と来(き)るとして発展してきました。

そして平成十五年七月にひと足早く合併した月岡温泉など観光産業で栄える旧豊浦町を加えた四市町村の力が結集し、新生・新発田市の新時代を築きます。

大きな輪となる 地域力と市民力

国道460号と290号を結び、国道7号と日本海東北自動車道をつなぐ新発田南バイパスもすでに開通し、県北地方の拠点性が高まっています。

平成十九年春には下越地区の基幹病院である県立新発田病院と付属看護専門学校がJR新発田駅前に移転新築し、それに併せて救命救急センターとウエブセンターが開設されます。

これにより、市民の暮らしを守り支える安心安全なまち、子どもから高齢者までが生き生きと輝くまち、豊かな市民生活を実感できるまち、農業と産業を振興するまちが実現するのです。

「地域力市民力を結集し、共に歩みましょう」という片山吉忠新発田市長の呼び掛けが大きな輪となつて広がっていきます。



旧加治川村長 佐藤 康夫

新発田市長 片山 吉忠

旧紫雲寺町長 鬼嶋 正之

海の幸、山の幸、里の幸、人は幸。 新しく豊かな新発田市のスタートです。

みんなの願いが 明日の新発田市を 創ります。

5月1日。夢を乗せて、 新時代の一步を踏み出します。

1. 新発田市と合併し、人口約10万人の超大都市を創り、
 日本を代表する「グローバル都市」に育て上げ、
 世界に発信する。

2. 人口約10万人の超大都市を創り、
 日本を代表する「グローバル都市」に育て上げ、
 世界に発信する。

3. 人口約10万人の超大都市を創り、
 日本を代表する「グローバル都市」に育て上げ、
 世界に発信する。

新「新発田市」誕生に当りて

***** 飯田 謙輔

新発田市「新発市」誕生を機に、新発市を「新発市」に育て上げ、世界に発信する。新発市は、人口約10万人の超大都市を創り、日本を代表する「グローバル都市」に育て上げ、世界に発信する。新発市は、人口約10万人の超大都市を創り、日本を代表する「グローバル都市」に育て上げ、世界に発信する。

新生・新発田市の
出発に当りて

***** 東川 和男

新発市「新発市」誕生を機に、新発市を「新発市」に育て上げ、世界に発信する。新発市は、人口約10万人の超大都市を創り、日本を代表する「グローバル都市」に育て上げ、世界に発信する。新発市は、人口約10万人の超大都市を創り、日本を代表する「グローバル都市」に育て上げ、世界に発信する。

新発田市との
合併に当りて

***** 野澤 伸二

新発市「新発市」誕生を機に、新発市を「新発市」に育て上げ、世界に発信する。新発市は、人口約10万人の超大都市を創り、日本を代表する「グローバル都市」に育て上げ、世界に発信する。新発市は、人口約10万人の超大都市を創り、日本を代表する「グローバル都市」に育て上げ、世界に発信する。

新たな都市
づくりに向けて

***** 岩間 善伸

新発市「新発市」誕生を機に、新発市を「新発市」に育て上げ、世界に発信する。新発市は、人口約10万人の超大都市を創り、日本を代表する「グローバル都市」に育て上げ、世界に発信する。新発市は、人口約10万人の超大都市を創り、日本を代表する「グローバル都市」に育て上げ、世界に発信する。